

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	やまがたけん 山形県	市町村名	ながいし 長井市	地区名	ながいみなみちく 長井南地区	面積	945 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

<p>目標</p> <p><地域の資産を活かした吸引力あるまちづくり></p> <p>・観光のまちづくり : 既存観光資源を活かした交流人口の中心部への誘導、景観・都市基盤環境整備による中心市街地の活性化</p> <p>・人にやさしいまちづくり : 全ての市民にやさしいユニバーサルデザインの都市基盤環境整備</p>

<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長井市は山形県の西南部に位置し、周囲を吾妻連峰、飯豊連峰、朝日連峰の峰々に囲まれ、各々を源流とする最上川、白川、野川の3清流が貫流する、面積215km²、人口3.1万人の西置賜地方の中核都市である。 ・中世に最上川の舟運路が開かれてからは、酒田を経て京都・大阪との舟運交易が行われるようになり、米沢藩の物資運搬の拠点として、また、絹織物や反物の商取引の町として栄え、市の中心部は現在も上方文化の薫りを漂わせる歴史豊かな情景のまちなみを残している。 ・市の中心部には、かつて生活用水や産業用水として利用されていた水路(せせらぎ)が数多く巡っており、最上川などの清流へ通じている。 ・市中心部付近では、これまで主として旧来からの市街地の隣接部における土地区画整理事業や主要骨格道路の拡幅延伸を行い、都市基盤の拡充を行ってきている。 ・春から夏にかけての観光トップシーズンには、久保桜、桜回廊、白つつじ公園、あやめ公園、黒獅子まつり、ながい水まつりなどの施設や催しに、県内外から数多くの観光客が訪れる観光資源があり、近年では冬の雪灯り回廊を開催し、通年型の観光都市を目指している。その一方、上記観光資源は通過型観光に留まっており、中心市街地への経済波及効果があまり大きくないのが現状である。 ・中心市街地は、大手企業の営業所統廃合が進んだことや商店の廃業などで、空店舗、空き事務所が増え、地盤沈下が著しく空洞化が進んでいる。 ・市の人口は、国勢調査によれば昭和60年をピークに減少傾向にあり、平成12年度の国勢調査結果では、高齢化率24.4%、年少人口割合(0-15歳)15.1%となっており、少子高齢化が進んでいる。 ・国土交通省により最上川沿いを歩いて景観を楽しむ最上川フットパス整備事業が行われており、これに併せて市では、市民によるワークショップを開催し、まちなかのせせらぎや歴史的な建造物、最上川の自然などの見どころを結んだ10のまちなかフットパスルートを策定した。 尚、策定したルートは『川集うまち長井'みずはの小道』として、市が管理するホームページへの掲載やパンフレットで広く一般に公開している。 これは、「最上川流域観光交流空間づくりモデル事業」のアクションプランのテーマである「川なみ街なみを再発見するリバーツーリズム”歩き主体の観光”」の主たる事業として、川と街をつなぐフットパスにより、川観光の活性化と歩き主体の観光でまちづくり波及効果を生み出す観光交流空間づくりを推進し、観光交流人口の拡大を図ることを目指しているものである。 ・市の南部においては、主要幹線道路の交通安全と交通環境の確保のため、市を南北に縦断する国道287号南バイパス工事が行われている。 ・市では中心部の衰退を懸念し、市内中心部ではまちづくり協議会を通じて、市民のまちづくりへの機運を高めながら中心市街地の活性化対策の検討を行い、官民協働によるまちづくりを目指して活動を支援している。 ・長井市では、そのキャッチフレーズ『水と緑と花のまち』のとおり、貴重な地域の財産である観光資源を活かした観光のまちづくりとともに、高齢者やハンディキャッパー、女性、子供へ配慮したユニバーサルデザインのまちづくりを目指している。

<p>課題</p> <p><観光立市と商店街活性化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の観光資源は個別にはそれぞれ吸引力を持っているが、通過型の観光拠点に留まっており、来訪客を中心部へ誘導し、まちなかを歩いて楽しむ観光ができるような回遊性の確保や景観整備の必要がある。 ・上記に関連し、中心部の商店街は昨今の不況や大型店の郊外立地などの影響で衰退が著しいことから、来訪者をはじめとする交流人口をまちなかへ誘導するための施設・基盤整備や再生のためのソフト対策が必要である。 ・来訪者の誘引のため、歴史的資産や背景、せせらぎの活用、市民ボランティアによる最上川の環境整備の検討によって、長井市南地区の市民アイデンティティを向上させるような、景観と環境に配慮した魅力ある市街地整備を進める必要がある。 <p><人にやさしいまちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地には、行政機関、金融機関、医療機関、各種店舗等の生活するうえで必要な施設が集中して立地しているため、高齢者・市民及び来訪者の訪れる機会も多く、段差のある歩道の解消、老朽化した道路の改修等を行なうことにより、今後の急速な高齢化 社会への対応及び、居住するすべての長井市民及び来訪者にとってやさしい環境形成を図る必要がある。

<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>上位計画の第四次長井市総合計画では『協働・創造・未来の鼓動 実感“ながい”』という将来像を掲げ、その中で中心部においては観光のまちづくりを基本テーマに据えている。市民が美しき、安心、快適性を感じられる『ながい』を市民と協働で形成していくことを目標としている。また、長井市都市計画マスタープランでは目標都市像を『多様な個性を尊重しあい住むことが誇れるまち』として、活力・ゆとり・生きがいのあるまちづくりを基本方針に位置付けている。商工関連事業では、今年度は中心市街地活性化事業に取り組み、まちづくりNPOに委託し、タウンウォッチング・各種研修・イベント等を実施するとともに、今後も空き店舗対策事業等に取り組み、中心市街地の活性化に向けた諸施策を展開して行く。また、観光面でも、既存の観光とフットパスを組み合わせた新たな観光を積極的にPRし、まちなかに観光客を呼び込み、交流人口の拡大を図って行く。</p> <p>これらのことを踏まえ、居住者である市民を基本とした安全・安心・快適なまちづくり、来訪者を迎え入れる観光のまちづくりに相応しい、かつ市民が誇りに思えるような市街地の景観形成を行うため、歴史と伝統、文化を尊重しながら、交流を基軸とした活力ある地域社会システムの形成とユニバーサルデザインのまちづくりを目指す。</p>
--

目標を定量化する指標					
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
交流人口(観光人口)	万人	久保桜、白つつじ公園、あやめ公園、はぎ公園、黒獅子まつり、水まつりの来訪者延べ人数	対象施設への来訪者数は年2.5%の減少傾向であることを加味し、せせらぎ水路やコミュニティ道路などの都市基盤、来訪者のための施設整備、来訪のPR等により、市の貴重な観光資源に基づく交流人口の減少の抑制、維持、拡大を目指す。	110万人	H22
商業年間売上額(小売業)	百万円	商業統計調査	小売業の商業年間売上額は、人口減少や景気低迷等を背景に年1.5%の減少傾向にある。これを加味し、交流人口の中心部への誘導により、上記の交流人口指標と連動して商業売上額の減少抑制を目指す。	36,520百万円	H22
中心部交通量(自動車・歩行者別)	台/日、人/日	交通量調査	中心部交通量が年1.0%程度の減少傾向にあることを加味し、中心部へ誘導するための高次都市施設整備により交流人口の中心市街地への誘導を目指し、上記指標により確保する交流人口と連動した交通量の減少抑制、維持、拡大を目指す。	自動車:51,200台/日 歩行者:1,600人/日	H22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><観光交流人口の確保と中心市街地への誘導> 老朽化した駅舎改築とあわせ、駅周辺の既存水路を活用した親水公園と駅前広場の整備を行い、長井の玄関口としての整備を行う。 各観光資源から中心部へ観光客を誘導するため、主要道路の歩行空間整備と主要ポイントへの誘導サイン設置を行う。 中心部回遊性の向上のため既存の歩道をコミュニティ道路として整備し、来訪者の誘引と利便性の向上を図る。 最上川の河川敷を水辺のアメニティ空間として整備し、潤いと憩いの空間を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路(基幹事業:コミュニティ歩道整備 8箇所 1,960m) ・地域生活基盤施設(基幹事業:親水公園と駅前広場整備 14,000㎡) ・高質空間形成施設(基幹事業:案内標識の設置 21箇所、フットパスサイン 20箇所) ・水辺環境整備(提案事業:水辺環境整備 350m)
<p><景観形成と中心市街地の活性化> 良質な景観形成を目指し、市内の既存水路を活用したせせらぎ空間の整備や歴史的建造物(移設改築)を活用したまちなか広場、旧西置賜郡役所周辺(公園・緊急避難場所等の防災機能を兼ねた広場)の整備を行う。 中心市街地の活性化や環境づくりのためのまちづくりワークショップなどの活動を発展的に促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹事業:小桜館周辺整備 5,000㎡) ・高質空間形成施設(基幹事業:せせらぎ水路整備 2箇所 550m) ・既存建造物活用事業(基幹事業:歴史的建築物活用:地域交流センター(小桜館) 1棟 319㎡) ・まちづくり活動推進事業(提案事業:まちづくり活動推進事業 ワークショップ開催 2協議会)
<p><交通環境改善による高齢化対策> 冬季の歩行空間を確保し生活利便性の改善を図るため、既存の歩道について無散水消雪空間としての整備を行う。また併せて、既存の水路を活用し消流雪用水配水路整備を行い、冬季交通利便性と安全性の向上を図る。 現在歩きにくくなっている歩道を改修し、高齢者、交通弱者の安全確保を図るとともに、既存市道の改良を行い交通環境の改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路(基幹事業:道路改築(消雪施設設置) 230m) ・道路(基幹事業:道路整備 160m) ・道路(基幹事業:道路改築 8箇所 1,465m) ・消流雪用水配水路整備事業(提案事業:消流雪用水配水路整備 6箇所 1,300m)

その他

・フットパス事業

フットパスは、イギリスで発祥した歩いて自然に親しむことを目的とした小道のことで、山形県では、母なる川として親しまれ、舟運文化の歴史もある最上川沿いをフットパスでつなぐことによって、自然と歴史を体験できる最上川観光のさらなる発展を目指している。国土交通省により、最上川沿い約6kmが整備され、さらに市では、市民によるワークショップを開催し、中心市街地の名所、旧跡、景観スポットを主に小道で結んだ10ルートを策定している。

・交付期間中の計画の管理

事業実施の効果を高めるため、行政、関係機関、まちづくりNPOを含めた中心市街地まちづくり協議会で、住民が主体となり、事業の進捗度合や成果を検証し、次年度以降の事業展開に活かして行く。

・事業終了後の継続的なまちづくり活動

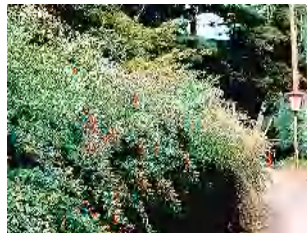
現在組織化されている本町・中央まちづくり協議会(本町、栄町地区の会員72名)では、景観、都市基盤、地域振興の3部会に分かれて現在まちづくり計画を策定中である。来年度以降は隣接する大町及びあらい町とさらにこれら3つの協議会を統括する中心市街地まちづくり協議会を設立し、まちづくりNPOとも連携しながらワークショップ形式によるまちづくり活動の展開を予定している。また、事業終了後も、まちなみの保全活動や活性化イベント等を継続的に実施し、まちづくり交付金事業の効果を最大限に高め



あやめ公園



白つつじ公園



はぎ公園



久保桜



まちなかのせせらぎ



黒獅子まつり



桑島記念館



旧小池医院



長井小学校



文教の杜



丸大扇屋



水まつり

